

炉物理セミナー (オンライン開催) 報告

講習を受けた感想 — 受講者の立場から —

FRENDY レポート

北海道大学 原子炉工学研究室 修士 1 年 原口太志

この度、第 49 回炉物理夏季セミナーにて、多田健一氏の FRENDY 開発についての講義に参加させていただきました。研究で核データ処理システムや評価済み各データライブラリにあまり触れてこなかった私にとっては、基本的な所から学ばせていただいた大変貴重な機会となりました。また、自分自身の研究に対する姿勢を考え直させられました。「評価済み核データライブラリとして JENDL を使いました」という言葉を何度か耳にした記憶がありましたが、厳密には利用しているのは評価済み核データライブラリから粒子輸送計算コードが読むことができる形に変換した、断面積ライブラリあるというお話を頂いたときに、まさにその勘違いをしてしまっていたと気づきました。自分が研究発表などで何気なく使っている専門的な言葉に対して、もっと深く慎重に向き合うべきだと思いました。

多群断面積ライブラリ作成に至るまでの核データ処理の流れについては、私の知識不足もあり完全に理解することは難しいと感じました。しかし技術的な話だけでなく、開発の経緯についても詳しくお話頂いたことで開発のリアルをイメージすることが出来ました。NJOY の処理の正確性について疑問を抱きつつ、半ばブラックボックスとして利用してきたことや、核データ処理コード開発には高度な専門知識を必要とするにも関わらず、目に見える成果が少ないことからなかなか軌道に乗らなかったことなど、現場のリアルを知れたことで私自身の研究意欲がさらに大きくなりました。